

株式会社リクルート・一般社団法人 全国高等学校PTA連合会合同調査
第10回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2021

コロナ禍で親子の会話が増加傾向、話題も多様化する中 進路選択への保護者の関わりを 「ちょうどいい」と感じる高校生が7割を超え過去最大に

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）と一般社団法人 全国高等学校PTA連合会（所在地：東京都千代田区 会長：泉 満）は、高校2年生とその保護者に対し、進路に関する考え方やコミュニケーションの実態を探る調査を実施いたしました。ここに集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。本調査によるリリースは「コミュニケーション」編、「ICT活用」編（翌週発表予定）の計2つあり、本リリースは「コミュニケーション」編です。※本調査は『リクルート進学総研』と「一般社団法人 全国高等学校PTA連合会」が2003年より隔年で実施しており、今回で第10回目を迎えます。

解説：『キャリアガイダンス』編集長 赤土 豪一：P2

コロナ禍における親子コミュニケーションの変化：P4

- 高校生が感じる進路選択に関する保護者の態度は、「干渉（前回差▲8pt）」と「無関心（同▲0.3pt）」が減少し、「ちょうどいい（同+8pt）」が70%を超えて過去最大に。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、会話が「増えた（高校生29%／保護者29%）」という回答が「減った（同3%／2%）」を親子共に上回る。増えた会話の内容は、「社会や政治に関する話（同32%／29%）」「将来や進路に関する話（同29%／24%）」「心や健康に関する話（同26%／33%）」。

保護者の進路選択への関わり方の変化：P5～7

- 進路についての話題は、「具体的な進路（前回差▲9pt）」や「現在の成績について（同▲8pt）」が減少し、「将来どんな生き方をしたいか（同+2pt）」や「保護者の大学・短大・専門学校時代の話（同+2pt）」、「保護者の進路選択の話（同+1pt）」「保護者の高校時代の話（同+1pt）」「保護者の（現在の）仕事の話（同+1pt）」など幅広い話題が増加。
- 「進路選択についてのアドバイスを難しい」と感じる保護者は継続的に70%程度存在するが、その要因としては「社会がどのようになっていくのか予測がつかないから（53%）」が前回調査から9pt増加してトップに。
- 進路の会話で保護者がよく使う言葉は、前回トップの「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」がさらに伸びて59%に（前回差+7pt）。「勉強しなさい（同▲11pt）」「お金がない、経済的に厳しい（同▲5pt）」「資格取得を目指しなさい（同▲3pt）」「いい大学に入りなさい（同▲3pt）」は減少。

未来社会への認識：P8～9

- これからの社会を好ましいと思う高校生は前回から7pt増えて58%と、保護者の39%（前回差+2pt）を上回る。中でも、進路について「話す」と答えた高校生／保護者は、「話さない」場合に比べてそれぞれ+8pt／+9pt、好ましいと答える比率が高くなっている。

※出版・印刷物、WEBサイト等へデータを転載する際には、“「高校生と保護者の進路に関する意識調査2021」リクルートキャリアガイダンス調べ”と明記ください。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

『リクルート進学総研』WEBサイト <http://souken.shingakunet.com/>

■ コロナ禍による社会に対する意識の変化が親子間にも影響を

2003年より隔年で実施しており、今回で第10回目を迎える本調査。コロナによる生活環境や価値観の変化が親子のコミュニケーションにも影響していることが、今回初めて見受けられました。親子の会話は約3割が「増えた」と答えるなど増加傾向。これは、コロナによる外出制限などの影響で家族がそろって自宅で過ごす時間が増えたことがベースとして考えられそうですが、コロナ禍をきっかけに関心がより外のさまざまなことへ向けられるようになったことも影響しているのではないのでしょうか？ 会話される内容も、高校卒業後の具体的な進路先についてのみならず、「将来どんな生き方をしたいか」など、話題が多様化するだけでなく、少し先を見据えた会話のウエイトが増す傾向がみられました。また、親から子へのアドバイスとして、「勉強しなさい」から「自分のやりたいことをやりなさい」へ変わってきています。高校生はそんな保護者の態度を「ちょうどいい」と感じている様子。フリーコメントでも散見されましたが、コロナがもたらした社会的インパクトを目の当たりにし、社会の価値観やあり方がどう変わっていくか分からないという意識が親子ともに働き、このような結果を導いているのだと考えています。

■ 親の進路に対する価値観も変化の傾向

進路の会話で保護者がよく使う言葉は、前回もトップだった「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」がさらに伸びて59%になっています。一方で、「勉強しなさい」「いい大学に入りなさい」といったかつてよく聞かれた言葉は減少傾向にあります。高校では22年度から本格始動する新学習指導要領で育成すべき資質・能力として「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が求められる時代となりました。これまで重視されてきた知識の習得とその再生の正確性だけでは、これからの社会を生き抜いていくことが難しくなっている中、保護者もそれらを理解し子どもへの接し方、期待することへの変化が表れてきているのも注目の一つです。

赤土 豪一（しゃくど ごういち）

リクルート『キャリアガイダンス』編集長

同志社大学商学部、早稲田大学大学院商学研究科（MBA）修了。2008年、新卒で教育関連企業へ入社。マーケティング／教材開発へ従事。その後、株式会社リクルートへ転職。以降、アナログ／デジタルを問わず、一貫して『スタディサプリ』における高校生向けキャリア教育プログラムの開発に従事。『スタディサプリ進路』編集デスクを経て、2021年4月より、教員向け専門誌『キャリアガイダンス』編集長へ就任。

Career Guidance



調査概要

■調査目的：高校生の保護者とその子どもにおけるコミュニケーションの実態と進路観の現状を把握する

■調査主管：株式会社リクルート、一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

■調査対象：高校2年生とその保護者、一般社団法人 全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県、各3校ずつ計26校の公立高校（北海道のみ2校）

※各校：2年生2クラスの生徒とその保護者

2021年	北海道 山形 茨城 東京 新潟 三重 和歌山 島根 沖縄
2019年	北海道 青森 山梨 東京 石川 愛知 和歌山 鳥取 熊本
2017年	北海道 岩手 福島 群馬 東京 長野 岐阜 大阪 和歌山 岡山 長崎

※調査実施校所在地は毎年変わるため、時系列データは参考

■調査期間：2021年9月14日～10月28日

■調査方法：学校を通した質問紙による自記式調査／またはWEB画面からの回答

(1) 高校生 ホームルームにてアンケートを配布

(2) 保護者 高校生から保護者へアンケートを手渡し

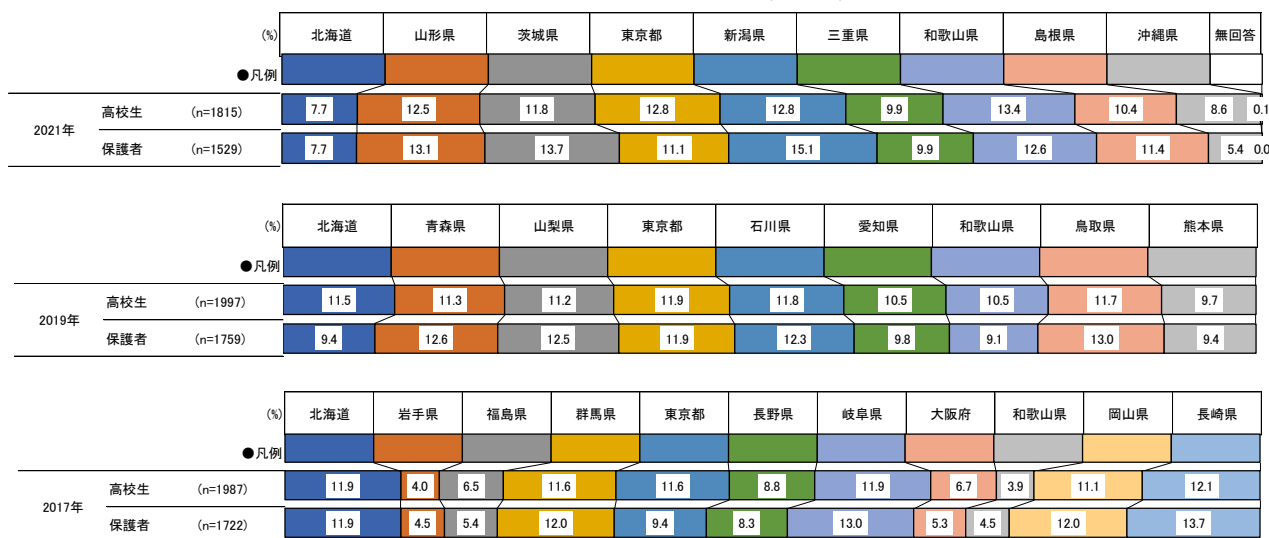
(3) 紙調査票に回答、または記載のURLなどからWEB調査画面にアクセスして回答

(4) 紙調査票またはWEBへの回答完了証を学級担任が取りまとめ、学校責任者が返送

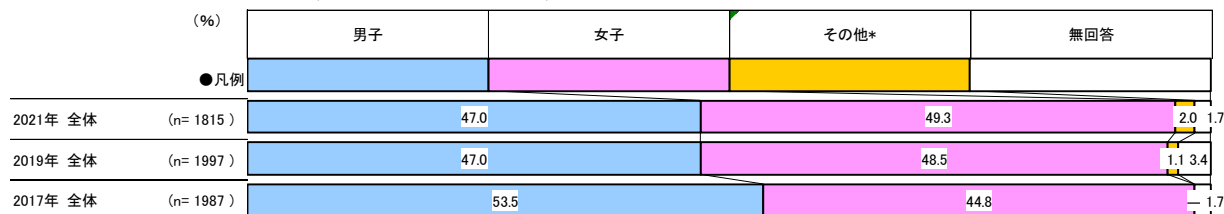
■有効回収数：(1) 高校生 1,815名 (2) 保護者 1,529名

回答者プロフィール

【高校生・保護者】時系列 調査対象校所在都道府県（全体）

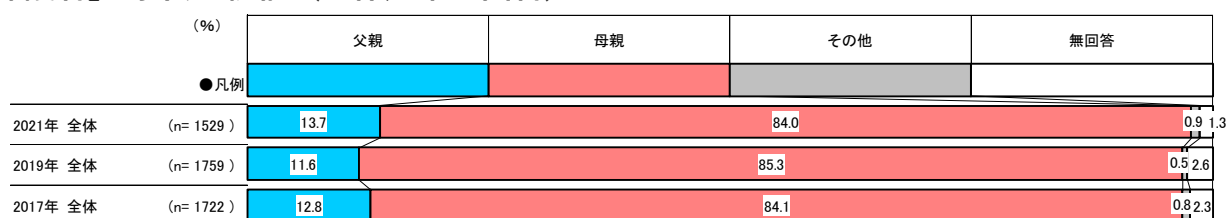


【高校生】時系列 性別（全体／単一回答）



*) 2017年調査では「その他」の選択肢なし

【保護者】時系列 続柄（全体／単一回答）



■高校生が感じる進路選択に関する保護者の態度は、

「干渉しすぎる・やや干渉する（前回差▲8pt）」と「やや無関心・無関心すぎる（同▲0.3pt）」が減少し、「ちょうどいい（同+8pt）」が70%を超えて過去最大に。

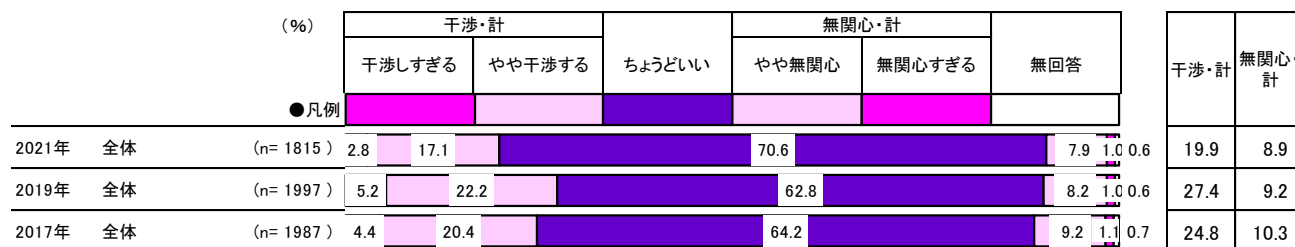
■新型コロナウイルス感染症の影響により、会話が「増えた（高校生29%／保護者29%）」という回答が、「減った（同3%／2%）」を親子共に上回る。

増えた会話の内容は、「社会や政治に関する話」（同32%／29%）

「将来や進路に関する話」（同29%／24%）

「心や健康に関する話」（同26%／33%）

【高校生】進路選択に関する保護者の態度（全体／単一回答）



【高校生・保護者】新型コロナウイルス感染症の影響による親子の会話内容の変化

（全体／各単一回答）

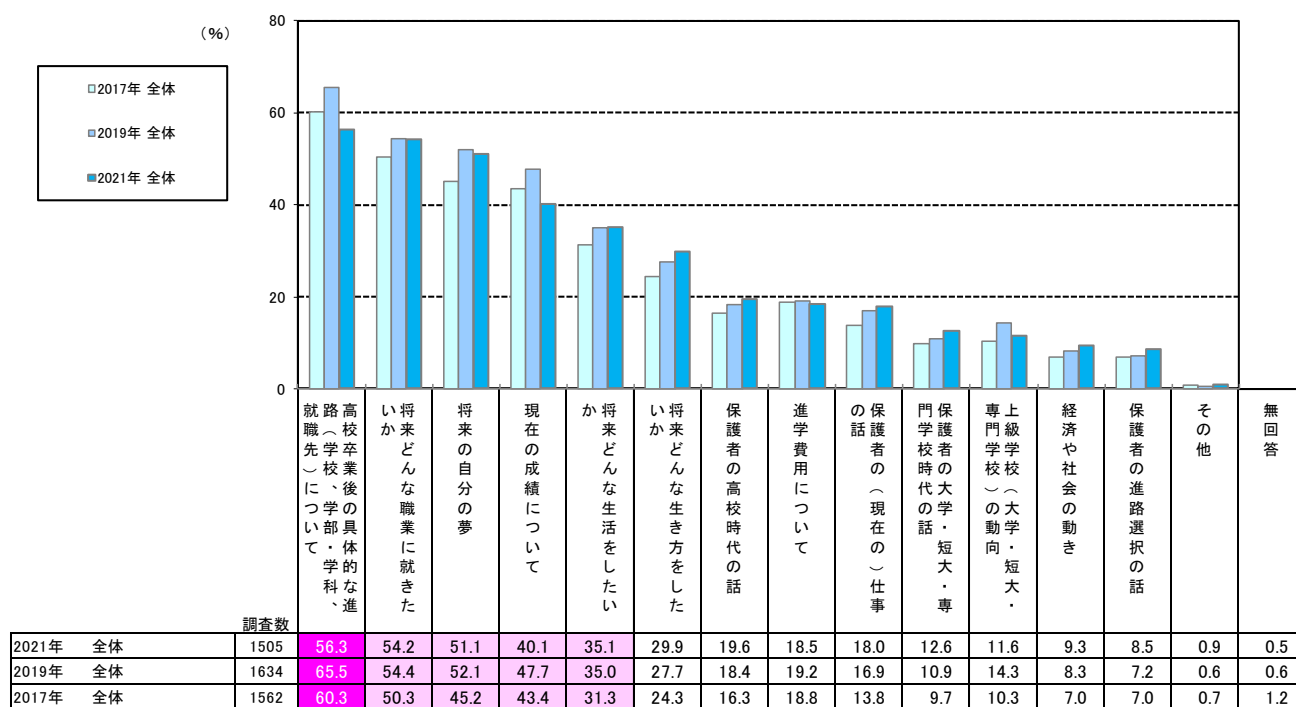


※「全体的なコミュニケーション量」以外は 高校生の「増えた・計」降順ソート

■進路についての話題は、「高校卒業後の具体的な進路について（前回差▲9pt）」や「現在の成績について（同▲8pt）」が減少し、「将来どんな生き方をしたいか（同+2pt）」や「保護者の大学・短大・専門学校時代の話（同+2pt）」、「保護者の進路選択の話（同+1pt）」「保護者の高校時代の話（同+1pt）」、「保護者の（現在の）仕事の話（同+1pt）」など幅広い話題が増加。

【高校生】進路について保護者とどんな話をしているか

（よく話をする～ときどき話をする／複数回答）

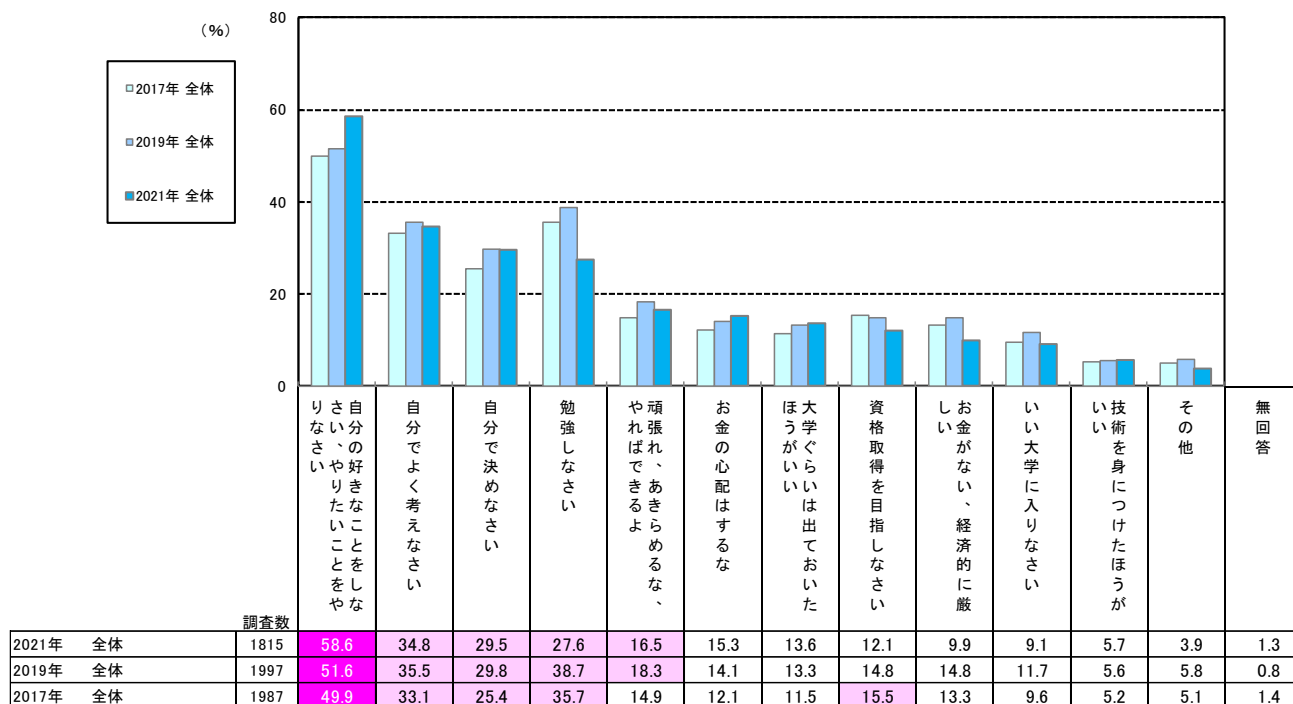


※「2021年全体」降順ソート ※ 100.0 各年で最も高い
100.0 各年で2～5番目に高い

■進路の会話で保護者がよく使う言葉は、前回もトップだった「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」がさらに伸びて59%に（前回差+7pt）。

一方で、「勉強しなさい（同▲11pt）」「お金がない、経済的に厳しい（同▲5pt）」「資格取得を目指しなさい（同▲3pt）」「いい大学に入りなさい（同▲3pt）」は減少。

【高校生】進路の話をするときに保護者がよく使う言葉（全体／複数回答）



※「2021年全体」降順ソート ※ 100.0 各年で最も高い
100.0 各年で2～5番目に高い

【高校生】最も使われる言葉と、それを言われたときにどう感じるか（フリーコメント）

※回答の原文ママ

「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」を選んだ高校生

「私の人生だから当たり前ではあるけれど、言ってくれてうれしい。」

「自分がどんな進路をとったとしても応援してくれると安心できる。」

「私の意志を尊重しようとしてくれていることへの感謝と、頑張らなければいけないと思う。」

「自分で努力する必要があると感じる。」

「自分の将来は自分で責任を持たないといけないな、と言われるたびに感じる。」

「自分で決めたことは最後までやり抜きたい。」

「余計、悩んでしまう。」

「あまり相手にされてないような気がする。」

「自分は将来何をしたいのかがまだ定まってないので逆に困る。アドバイスが欲しい。」

■これからの社会を好ましいと思う高校生は前回から7pt増えて58%と、保護者の39%（前回差+2pt）を上回る。中でも、進路について「話す」と答えた高校生／保護者は、「話さない」場合に比べてそれぞれ+8pt／+9pt、好ましいと答える比率が高くなっている。

【高校生】これからの社会は好ましいか（全体／単一回答）

(%)			好ましい・計		好ましくない・計		無回答		好ましい・計	好ましくない・計
			とても好ましい社会だ	まあまあ好ましい社会だ	あまり好ましい社会ではない	非常に好ましくない社会だ				
●凡例										
2021年	全体	(n= 1815)	7.8	50.1		32.9	5.6	3.6	57.9	38.5
2019年	全体	(n= 1997)	6.3	45.1		38.8	5.7	4.2	51.4	44.4
2017年	全体	(n= 1987)	4.5	47.0		39.0	5.8	3.7	51.5	44.8
進路対話 頻度別	話す・計	(n= 1505)	8.0	51.4		32.4	4.7	3.5	59.5	37.1
	話さない・計	(n= 297)	6.7	44.4		35.4	9.8	3.7	51.2	45.1

【高校生】そう思う理由（フリーコメント） ※回答の原文ママ

好ましい

「テクノロジーが発達し、生活が便利になっていくから。」
「なんとなく息がしやすい社会になってきた気がするから。」
「コロナであぶり出された闇がこれからなくなっていくと思うから。」
「多様化が進んだり、価値観の違いが受け入れられたりしているから。」
「1人1人の考え方を発信できる社会で、新しいことが次々に起こると思うから。」
「多様性を認めることで、よりクリエイティブなものが生まれるから。」

好ましくない

「気候変動によって多くの災害が発生しているし、コロナも流行しているし、予測できないことばかりが最近多発しているから。」
「性別、宗教、国籍、障害の有無などで起こる差別を仕方ないと思ってる人が多いと感じるから。」
「高齢化が進む中で自分たちが大人になるにつれて負担が大きくなっていきそうだから。」
「若者に不利な社会だから。」

【保護者】子どもにとって、これからの社会は好ましいか（全体／単一回答）

		(%)	好ましい・計		好ましくない・計		無回答		好ましい・計	好ましくない・計
			とても好ましい社会だ	まあまあ好ましい社会だ	あまり好ましい社会ではない	非常に好ましくない社会だ				
●凡例										
2021年	全体	(n= 1529)	2.3	36.6	49.7	3.3	8.1		38.8	53.0
2019年	全体	(n= 1759)	1.6	35.4	44.4	2.4	16.1		37.1	46.8
2017年	全体	(n= 1722)	1.6	32.4	44.9	2.9	18.2		34.0	47.8
2021年										
進路対話 頻度別	話す・計	(n= 1354)	2.4	37.6	49.1	3.2	7.7		40.0	52.4
	話さない・計	(n= 173)	1.7	28.9	54.9	4.0	10.4		30.6	59.0

【保護者】そう思う理由（フリーコメント） ※回答の原文ママ

好ましい

「授業の方法が変わり、勉強がしやすい環境。」
「コロナ禍の中、新しい技術や考え方、生き方など前向きな改革も進んでいるから。」
「以前より情報収集や発信が安易なこと。いろいろな価値観を認めていること。
社会的価値観が変化していること。」
「子どもの個性を生かし、型にはまることなく、活躍できる場が国内外に増えたと思うから。」

好ましくない

「情報が多過ぎて、取捨選択が難しい社会だと思います。」
「今、人間がしている仕事の大半がAIに代わっていくのではないか。」
「コロナ禍で未来が見えない。」
「すでに人口減少に転じ、日本はこれから発展する国ではないから。」
「超高齢化が進み、若い人への負担が大きくなる。自然災害も増え、安心して暮らせない。」
「超高齢化社会になって若い年代への負担が増えていく社会がどうなっていくのか、想像つかなくて不安。」

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人一人のライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、メディア&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、4万5,000人以上の従業員とともに、60を超える国・地域で事業を展開しています。2019年度の売上収益は2兆3,994億円、海外売上比率は約45%になります。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人一人が輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.co.jp/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>